

チカメタカサゴの日本における成魚 3 個体目の記録

和田英敏¹・本村浩之²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

フエダイ科セダカタカサゴ属 *Pinjalo* は、背鰭基底が部分的に鱗に覆われる、鋤骨に歯帯をもつ、第 1 鰓弓の下枝鰓耙数が 20 以下、背鰭が 11–12 棘かつ 13–15 軟条、目の中心がほぼ体軸上にある、側線下方の鱗列が斜め上後方へ向かう、および牙状の歯をもたないなどの形態的特徴をもち (Allen, 1985; 島田, 2013), 全世界でセダカタカサゴ *Pinjalo lewini* Randall, Allen and Anderson, 1987 とチカメタカサゴ *Pinjalo pinjalo* (Bleeker, 1850) の 2 種が有効とされており (Fricke et al., 2018), 日本からもこの 2 種が知られている (島田, 2013).

チカメタカサゴはこれまで国内において石垣島から得られた稚魚と、鹿児島県大隅半島の佐多岬沖と薩摩半島の開門川尻沖から得られた成魚 2 個体のみが記録されている (金城・仲本, 1995; 岩槻ほか, 2004; 小枝・本村, 2015).

2019 年 1 月 5 日に大隅諸島の黒島の沖合で 1 個体のチカメタカサゴが釣獲された。この標本は鹿児島県ならび日本におけるチカメタカサゴ成魚の標本に基づく 3 例目の記録であり、大隅諸島からの初記録となるため、ここに報告する。

■ 材料と方法

標本の計数・計測は Randall et al. (1987) にした

Wada, H. and H. Motomura. 2019. Third Japanese record of adult *Pinjalo pinjalo* (Perciformes: Lutjanidae) from Kuroshima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 193–195.

✉ HW: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: gd120300@gmail.com).

Published online: 13 January 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-032.pdf

がった。標準体長は体長または SL と表記し、ノギスを用いて 0.1 mm 単位で計測した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告で用いられた標本は鹿児島県黒島産の 1 標本 [KAUM-I. 125210, 体長 504.8 mm, 全長 605.0 mm, 大隅諸島黒島片泊沖 (30°49'N, 129°52'E), 2019 年 1 月 5 日, 1 本釣り, 水深 60 m, 岡留保造・大久保清隆 (福寿丸); Fig. 1] で、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、生鮮時の写真 (Fig. 1) は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられた上記 KAUM 以外の研究機関略号は MUFS (宮崎大学農学部海洋生物環境科学) である。

■ 結果と考察

鹿児島県黒島産の標本は、背鰭基底部の 1/5 から 1/3 が小鱗に覆われる、鋤骨に歯帯をもつ、第 1 鰓弓の下枝鰓耙数が 17、目の中心がほぼ体軸上にある、側線下方の鱗列が斜め上後方へ向かう、および牙状の歯をもたないなどの形態的特徴から Allen (1985) の定義した *Pinjalo* 属と同定された。また、背鰭が 11 棘 14 軟条、臀鰭が 3 棘 10 軟条、および鮮時に腹鰭と臀鰭が黄色を呈するなどの特徴が Randall et al. (1987) および島田 (2013) が報告した *P. pinjalo* の標徴とよく一致した。

本標本の計数・計測形質は以下のとおりである。背鰭棘数 11; 背鰭軟条数 14; 臀鰭棘数 3; 臀鰭軟条数 10; 胸鰭軟条数 18; 側線有孔鱗数 50; 背鰭起部下における側線上方鱗数 10; 側線下方鱗数 20; 背鰭前方鱗数 17; 尾柄鱗数 26; 上枝鰓耙数 7; 下枝鰓耙数 16。体各部測定値の標準体長に対する割合 (%) : 体高 37.8; 体幅 14.5; 頭長 26.2; 吻長 8.3; 眼窩径 5.8; 両眼間隔 9.8;



Fig. 1. Fresh specimen of *Pinjalo pinjalo* (KAUM-I. 125210, 504.8 mm SL) from Kuroshima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. Both photographs were taken soon after the fish was captured, the top image against a black background, the bottom against a white background.

上顎長 8.6；眼窩下縁から眼窩骨下縁までの長さ 3.1；尾柄高 10.2；尾柄長 22.9；背鰭前長 33.3；臀鰭前長 67.3；腹鰭前長 34.8；背鰭基底長 56.8；背鰭第 1 棘長 11.4；背鰭第 2 棘長 13.1；背鰭最長棘長 13.2；背鰭最後棘長 8.5；背鰭最長軟条長 9.1；臀鰭基底長 17.4；臀鰭第 1 棘長 3.1；臀鰭第 2 棘長 9.2；臀鰭第 3 棘長 9.0；臀鰭最長軟条長 9.4；尾鰭長 27.3；胸鰭長 25.9；腹鰭棘長 9.8；腹鰭長 15.3。

本標本の計測形質は岩槻ほか（2004）と小枝・本村（2015）の示した値とおおよそ $\pm 10\%$ の変異を

もち、特に尾柄長については小枝・本村（2015）の示した値からおおよそ 36% 大きな値を示した。これは岩槻ほか（2004）の報告した標本（MUFUS 22234, 体長 420.0 mm）と小枝・本村（2015）の報告した標本（KAUM-I. 70693, 体長 339.9 mm）と比較して本標本が体長 504.8 mm と大型であることから、成長に伴う形態変化であると判断した。

本標本は鹿児島県大隅諸島におけるチカメタカサゴの初記録であるとともに、日本における本種成魚の 3 例目の記録かつ最大記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、サン装建の岡留保造氏と福寿丸の大久保清隆氏には貴重な標本を確保し、提供していただいた。宮崎大学の津崎兼土氏と投野隼斗氏、原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティア、藤原恭司氏と中村潤平氏をはじめとする同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。以上の方々に対し、謹んで感謝の意を示す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS 科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とそその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性・島嶼プロジェクト)学長裁量経費の援助を受けた。

■ 参考文献

- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, No. 6 (125): i-vi + 1-208.
- 岩槻幸雄・上林大輔・三國清士・吉野哲夫. 2004. チカメタカサゴ *Pinjalo pinjalo* の日本水域からの初記録. 日本魚類学雑誌, 51 (2): 163-167.
- Fricke, R., Eschmeyer, W. N. and van der Laan, R. (Eds). 2018. Catalog of fishes: genera, species, references. <http://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp>. Accessed 9 Jan. 2019.
- 金城清昭・仲本光男. 1995. 石垣島から得られた *Pinjalo pinjalo* の稚魚. 1995 年度日本魚類学会年会講演要旨, p. 39.
- 小枝圭太・本村浩之. 2015. チカメタカサゴ *Pinjalo pinjalo* の日本における成魚 2 個体目の記録. *Nature of Kagoshima*, 41: 107-110.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Randall, J. E., Allen, G. R. and Anderson, Jr. W. D. 1987. Revision of the Indo-Pacific lutjanid genus *Pinjalo*, with description of a new species. *Indo-Pacific Fishes*, 14: 1-17, pl. 1.
- 島田和彦. 2013. フェダイ科. Pp. 91-930, 2001-2004. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.